

質問
60代の男性です。腰痛があり、血液検査をしたところ、貧血とタンパク上昇を指摘され、多発性骨髄腫が疑われると言われました。どのような病気なのでしょうか。



答え
多発性骨髄腫は、形質細胞(白血球の一種)という血液の細胞ががん化した、高齢者に多い悪性腫瘍です。全国で毎年、10万人に3人程度が発症していますが、高齢化とともに患者は増加傾向にあります。若い方には発症することがあります。

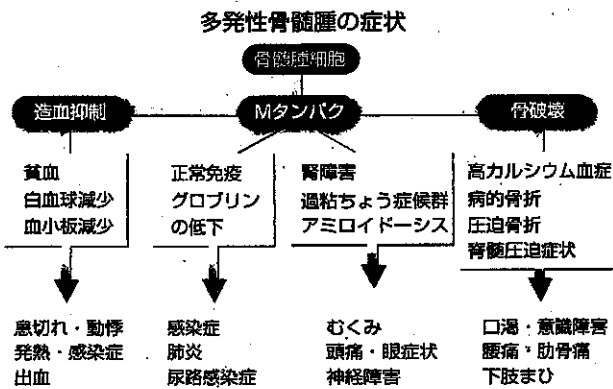
この病気の腫瘍細胞(骨髄腫細胞)は、脊椎や肋骨腸骨などを中心に骨の中(骨髄)を好んで広がり、異常タンパク(Mタンパク)を多量に産生します。



三木 浩和

徳島大学病院
輸血・細胞治療部助教

多発性骨髄腫とは



多発性骨髄腫の場合、次に骨髄腫に伴う臓器障害、つまり貧血、骨病変、腎障害、高カルシウム血症が一つ以上あれば、治療が必要な症候性骨髄腫と診断されます。このような臓器障害を調べるために、血液検査と骨のレントゲン写真やCT検査、MRI検査などを行います。

骨髄腫細胞が骨の中で増殖すると、正常な血液細胞が造られなくなり、動悸、息切れなど貧血の症状が現れます。骨髄腫細胞が大量に産生するMタンパクは腎障害を引き起こします。

また、進行とともに骨が次第に溶かされ、痛みや骨折が起こります。特に、体重の負荷がかかる背骨に圧迫骨折を来しやすくなります。背骨の圧迫骨折がよくなるにつれて、脊髄や神経が圧迫されて脚のしびれや痛みも伴うことがあります。

多くの場合、今回のように脊椎の圧迫骨折による腰痛や背部痛などの骨痛で受診し、病気が見つかりませんが、検診でたまたま血清タンパクの高値や貧血などの異常が見つかり、本症が分かる場合も増えていきます。

高齢者に多い悪性腫瘍

これらの臓器障害が一つでもあれば、骨髄腫に対する治療が開始されます。治療は①抗がん剤による治療の骨病変や血球減少などに対する症状を緩和するための支持療法②Mタンパクを産生している形質細胞を標的とした治療です。ボルテゾミブ、レナリドミドとサリドマイドという新規治療薬が国内で使用可能となり、初回治療や再発時の治療成績が著明に向上し、生命予後が大幅に改善されています。また、65歳以下で心臓や肺などの臓器機能が保たれていれば、初期の化学療法を行った後に、大量化学療法を併用した自家末梢血幹細胞移植法が有効です。

今回の場合、症候性骨髄腫であれば、年齢が60代といふことであり、自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法の適応となるかどうかを一般的には検討をします。治療法に関しては担当の医師とよく相談してみてください。

質問募集 がんに関する悩み「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-0872 徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センターへ088(033)94388(でも平日午前8時半～午後5時に受け付けています)。